

えべつの未来づくりミーティング

～ 市内企業の経営者編 ～

令和4年5月16日（月） 江別市民会館2階23号室
午後2時～午後4時10分

1 江別市の「強み」「弱み」は

・一軒家の建設ラッシュが見られる。その多くは江別市外から引っ越してきているのではないだろうか。他の自治体が定住策を行っている中で、江別市は恵まれている。近隣の他市と比較しても札幌市に近い。江別市を定住場所として選んでいただいている中、住んで良かったと思っほしい。弱みは、移って来た人に、住んで良かったと十分に思ってもらえていないこと。江別市の住環境が恵まれていることに、あまり気付いていないのではないだろうか。



東西にまちが広がっている中で公共交通機関のアクセスが悪くなっていることも弱み。車を使うことが前提のところに家が建っている。駅前に駐車場の整備が進んでいるが、駅まで自家用車で通勤・通学することを前提に駅周辺を整備すれば、不便さも多少解消されるのではないかと思います。

・市内に四つの大学があるが、卒業後、市内に就職するケースが少ないのではないだろうか。経営者としても、自分の事業所で受け入れられないことが心苦しい。強みは、子育て環境が良く、都会も近くて自然もあるところ。弱み

は、雪。バスの運行が止まってしまうのは改善が必要ではないかと思う。除雪を支えている事業者も減っているため、事業者を育てることも大事ではないだろうか。建設や設備に携わる人も減っている。技術職は一度減ると増やしづらく、自然災害時に市内で対応できるようにしておくためにも必要だと思う。また、最近、市内の地価が上がってきている。土地が安いというメリットが弱くなり、近隣の他市に行こうか、という流れが出てきているのではないだろうか。



・強みは、自然がすぐそばにあること。江別大橋から岩見沢市に行く道が好きで、四季折々、季節を感じることができる。弱みは、JR江別駅周辺が寂しいこと。JR江別駅は、川も近くて観光でPRできる要素はある。えべつ観光協会のゆる認定キャラクター「えべちゅん（右の絵）」をもう少し推しても良いのではないだろうか。江別河川防災ステーションの敷地内からは鉄道が良く見えるので、撮り鉄の方々にアピールすることも考えられないだろうか。温泉めぐりも広域で考えれば可能である。いろいろと潜在能力が出し切れていないと思う。また、子育て世代にやさしいまちであることに加えて、障がい者への対応などが更に良くなれば、多様性の観点から、魅力を高めることができるのではないかと思う。



- ・最近まで、製紙会社特有の臭いが気になっていた。風向きによっては、白く煙がかかることもあった。しかし、最近改善されたことで、土地の取得を考える市外の方が増えていると聞いている。臭いの問題が改善されたことは、移住を勧めるPR要素になると思う。また、住んでみて江別市域に奥行きがあることを知った。この奥行きをもっと生かせるような交通網がもう少し整備されると良いと思う。
- ・アンケート調査結果を見ると、回答者の約8割は江別市外からの転入者であった。これだけ市外から来てもらっているにも関わらず、定住する可能性が高くないのではないだろうか。江別市に合った人に定住してもらえるようなまちづくりが必要で、そのためには、今の暮らしがいかに関魅力的であるかを伝えることが大事だと思う。江別市の周辺自治体から人を取り合うのではなく、全国から呼び込むことが大事ではないだろうか。災害が少ない利点を生かし、災害が発生した地域から江別市に来てもらうことも考えられる。反対に、江別市で災害が発生したら助けてもらうなど、お互い助け合う自治体の連携も大事だと思う。土地の価格だけでなく、江別市が好きだという人に移ってきてもらうことが重要ではないだろうか。
- ・車でも公共交通機関でも通いやすいことが強みなのだと思う。自社は、お客様も江別市の次に空知管内の方が多い。札幌市に目を向けがちだが、空知管内の方にも宣伝や移住のPRを行ってはどうか。また、江別市内の小中学校の学力テストの成績が良いと聞いている。岩見沢市では、高校を再編成するなど、高校に力を入れる動きがあると聞いているが、江別市内には大学もあるので、江別市になるべくとどまってもらうために、江別市でも、それぞれの高校の特長を生かした取組に重きを置いてみてはどうか。



2 近年の人手不足について

- ・求人募集をすると、最近江別市内だけでなく、札幌市のほか、当別町や岩見沢市、南幌町からも採用面接に来ていただいている。
- ・土日仕事もあり、早朝からの作業が必要なので、人員の頭数が必要な状況である。江別市内から通勤している従業員は8割ぐらいである。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大と大雪があったことで、札幌市から通っていた従業員が退職し、札幌市に通っていた江別在住者が新たに入社した。市外の方に対しても、どういう会社なのかを伝えられる機会を増やすべきだと思った。



- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、外国人実習生が戻って来ることができないことで人手不足に苦勞していたが、自動化の整備を進めたことで省力化が図られた。この春から徐々に外国人実習生も戻って来ている。
- ・求人募集をしても応募がないという相談を受ける。若い人は給料の額よりも休みなどを重視する傾向にある。働き方の価値観が転換している時期ではないだろうか。積極的に情報を発信し、マッチングしていくことが大事だと思う。
- ・社内の人材の循環が停滞気味で高齢化が進んでいる。若い世代と昔からの世代で働き方の考えが違っていると感じている。
- ・欠員が出たら補充するという状況であるが、道央圏にいろいろな業種が集中してきており、働き手の奪い合いになっている。

3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・人口減少により成熟社会になってきており、札幌市や東京都と同じものを求める人は江別市には来ないと思う。実利を取り、品のある落ち着いたまちになってほしい。多少雪が多めでも、頑張って除雪するからという世帯に入って来てもらう。そのような世帯が高齢化したら、その都度考える。空いたらまた人が入って来る、循環するまちにしてはどうだろうか。観光については、他のまちで満たされなかったものを満たしてもらうことを考えていけば、江別市にも観光の要素があると思う。
- ・人口減少が進むと札幌市周辺に人が集まる。食を考えると江別市は意外と食べる場所が少ない。あそこに食べに行きたいね、というところが市内に増えると良い。EBRI(エブリ)があるが、JR駅から遠い。インターチェンジの周辺には魅力的な観光スポットがなく、もったいないと思う。
- ・江別市には自然があり、野菜も育てられる。食品関連会社に勤める親戚が道外にいるが、将来はもっと広い場所で野菜を育てて、店も開きたいと言うので、江別市を勧めている。住みやすいところで、ゆっくりと生活を送りたいという人は全国にいるので、そのような人たちに江別市が紹介できると良いのではないだろうか。
- ・JR江別駅周辺が寂しい。そのままの状態が続いており、過去の遺産になりつつある。市がお金をかけるものではないと思うが市の名前がついている駅であり、もったいない。
- ・JR江別駅の駅舎は、昔ながらの造りで、鉄道マニアとしては魅力があるそうだ。
- ・地域や鉄道を紹介する、影響力のあるユーチューバーもいる。観光については、そのようなユーチューバーとコラボしてPRするのも良いのではないだろうか。
- ・農村の風景を大事にしてほしい。廃屋になった農家などもあり、風景が崩れてきているところもある。観光が体験型に移行している中で、空き家対策などを進めるためにも農村の景観保全に力を入れてほしい。田んぼも人手がないと荒れてしまうので、まちの人が休日に耕しに来るようになるとういのではないだろうか。乱開発で景観的に美しくないところも増えているが、きれいな市民農園を増やすなどしてはどうだろうか。観光や交流から定住につながることもあると思う。
- ・今は人口増・社会増という成果が出ているが、どこかで限界が来る。江別市自体の魅力を高めていくために、総合的に力を入れて、全体的に魅力を高めていくことが大事ではないだろうか。その中で、観光などまだまだ足りない分野を底上げし、えべつ観光協会などが情報発信等で支援していく。いろいろな媒体を使いながら発信力を高め、多くの人々の目に触れるようにしていくことが必要。これをやればすべて解決する、ということはない。その中で、農業と観光に力を入れていくことが重要ではないだろうか。農業生産者はいろいろな活動をされているが、商工会議所の会員企業などの企業とのつながりがまだあまりないと思う。農業団体と経済団体との結びつきがもっと深まれば良いと思う。

